名著再読

徳川夢声『話術』を読む

兵庫教育大学名誉教授　長谷川　孝士

『話術』　徳川夢声
白揚社／1949年
（＊表紙は2003年刊のもの）

徳川夢声著『話術』（第一版第一刷――昭和二十四年六月二十五日、白揚社）の第二部第二編「演壇話」の中に次のような発言がある。

「高校・中学の先生方よ、もっと面白く授業をして下さい。先生が病気で休講すると、生徒が大喝采では困りますね。小学の先生方よ、次の時代の国民を、強く、明るく、正しき文化人にする教育の基礎は、あなた方に委せられているんです。子供は例外なくオハナシが好きなものであります。どうか、どの時間も面白くハナシて、教えて頂きたい。ついては、皆さんのコトバですが、どうか標準語でお願いいたします。」

本書は、教育の「話術」についての本ではなく、「はしがき」に次のように書かれていて、「日常の座談」の発展を主として求めて執筆されたものである。

「話術をもっと修練し発達させ、日本コトバの長所を、存分に発揮させて、正しい、強い、千変万化の表現力を、養わねばならない。舞台や、演壇でする話術も、もちろん研究の必要があるが、私は、日常の座談が、もっと深く研究されてよいと思う。」

昭和三十二年に第二版、さらに昭和三十七年に新版第四刷が発行された。

『話術』（新版）の目次―。

第一部　総説
第一編　話の本体
第二編　話の根本条件―1　人格と個性　2　言葉の表現　3　声調と口調　4　間の置き方　5　ハナシの分類
第二部　各説
第一編　日常話
第一章　座談　第二章　会談
第三章　業談
第二編　演壇話
第一章　演説　第二章　説教
第三章　演芸―童話／講談／落語／漫談／放送
第三部　話道の泉

第四部　附説―第一編　話題について
第二編　テクニックについて

「国語教室の人」（西尾実先生のことば）となって「教育話法」について強い問題意識を持つようになった。毎日の国語教育実践において、学習者の発達段階や実態に即した音声の大きさ、速さで話すこと、また説明、発問、読み聞かせなどにそれぞれに適した音声や話法を身につけるようにと努めていたころに、本書を読んで、大いに学ぶところがあった。

とりわけ自分の「教育話法」のあり方に大きな影響を与えられたのは、第一部第二編「話の根本条件」の中の「4、間の置き方」の部分であった。

「ハナシにとって、コトバを並べることは絶対条件であるが、そのハナシに生命を与えるのは、（中略）いろいろの条件が必要であります。そしてその生命を溌剌（はつらつ）として元気あらしむるためには、も一つ肝腎な条件が潜んでいるのです。」

と言って、次のように述べている。

「ハナシというものは、喋るものですが、そのハナシの中に、喋らない部分がある。これを『間』という。こいつが、実は何よりも大切なもので、食物に例えていうと、ヴィタミンみたいなものでしょうが、直接、ハナシのカロリーにはならないまでも、このヴィタミンMが欠けては、栄養失調になります。」

「ただ生理的に無神経に、言葉と言葉との区切れをつけるのでなく、張りつめた神経を鋭敏に働かして、電波探知機（レーダー）の如く、正確無比に適不適を計るところの『沈黙の時間』なのです。」

「ハナシに限らず、芸術と名がつくものには、音楽は元より、美術、彫刻、文学、演劇、みな『マ』が、重要な位置を占めています。目立たない、目に見えない重要な位置をです。」

徳川夢声氏は、「マとは沈黙なり」では「誤解を生ずるかも知れません」、つまり「間」とは単なる「沈黙」ではない、「『マ』とは虚実のバランスなり。」と言い、「ハナシをする場合、コトバだけの研究では足りません。そのコトバにもたせる『マ』の研究、話している間の表情動作すべてにわたるバランスの研究、そこまで行かないと満点とはいえません。」と述べている。

徳川夢声氏は本書で次の「演説心得六カ条」を主張している。

「第1条　自分が言わんとすることを、心の中に順序よく積み重ねておく。」「第2条　聴衆の状態によって、言語態度など変通自在に加減する。」「第3条　場所の状況如何によって、臨機応変たること。」「第4条　自分性来の声、すなわち地声をよく鍛錬すること。」「第5条　会場の広狭、聴衆の多少によって、声の調節を計ること。」「第6条　聞かせるのが半分、観せるのが半分と心がけること。」

第6条の「観せる」は「コトバの他に、表情や、動作や、服装」などの力を借りる必要をさしている。私は、これを「板書」や「視覚的資料」などととらえた。そして同時に、ここに「間」のとり方が深くかかわっているのである。

本書の「間の置き方」の章は、次の二文で結ばれている。

「――『話術』とは『マ術』なり。」

「――『マ』とは動きて破れざるバランスなり。」

徳川夢声著『話術』は「教育話法」について書かれたものではないが、「国語教室」に生かされる実に多くのことを語っている。

はせがわ　たかし　兵庫教育大学名誉教授。著書に『豊かな国語教室―原理・方法の探究』（右文書院）、『ひびきあう国語教室の創造』（三省堂）、『子規全集』八・一二・一七巻（講談社）などがある。